すばる会

副会長　江村和朗

私は豊中高校時代、気象天文クラブ（地球物理研究会、略して地研と称していた）に所属していて、1年先輩の角辻豊さんが、当時、部長をしておられたことは以前にもこの瓦版でご紹介した通りである。昨年夏、我々同期の者たちが角辻先輩をお迎えして懇親の時を持とうということになった。

我々の地研同期会の名称は「すばる会」という。すばる（昴）とは星座の名前、正式にはおうし座にあるプレアデス星団、肉眼では6個見えるので漢字で六連星と書いて「むつらぼし」ともいう。6人だったのでこの名を取った。

まず、文藝春秋風にメンバーの紹介。F君：角辻さんの後を次いで部長になった。神戸大（工）計測工学を出て富士通入社、通信機を作っていたが定年後はケーブルテレビに携わる。M君：大市大（理工）地学を出て世界各地で石油発掘に従事、その後石油公団へ。この二人が現在東京在住。S君：京大（工）機械を出てヤンマーディーゼルへ。何故か今でも農機具関係でヨーロッパを飛び回っている。N君：関学大（経）から近畿信用銀行へ。同行のコンピューターシステムを開発した。今はボランティアで高齢者にパソコンを教えている。Y君：同じく関学大（経）からシャープへ。営業畑一筋、お客様をつれて豪華客船で世界一周したのが自慢。そして小生：阪大（理）化学からユニチカへ。当時の社名は大日本紡績であったが繊維は1本も作ったことがなく、化学プラントの操業に従事し続けた。

さて、時は科学暦4年7月31日（土）18時30分。場所は大阪梅田ニュートーキョー。我々が少し早めに来てビールを飲んでいるところに、角辻先輩が心臓手術を受ける日程を変更してかけつけて下さった。私以外は約48年ぶりの再会となったが全く違和感はない。たちどころに高校時代の雰囲気に戻った。

しかし、地研時代の思い出話は長続きしなかった。すぐに角辻先輩というよりも角辻会長の講義がはじまった。もちろん科学暦や宇宙語のこと。「すばる会」のテーマとしては誠にふさわしいものではあったが、後輩たちはただ「はあ」とか「そうですか」とか相槌をうつのが精一杯、質問の糸口さえもつかめない。無理に質問をした者もいたが、内容がトンチンカンになってしまってなかなか噛み合わない。それでも感銘を受けて何人か入会したらしい。数日たってS君から感想を述べたメールが届いた。曰く、「実に神秘的な会合でした。」

角辻会長のカリスマ性はどこに行っても消えることがない。

会計報告

（会計係　角辻克子）
（会計監査　山崎幸三）

会計報告（01.05～05.03）

収入	内訳	支出	内訳
1,411,400	会費	157,245	総会費
44,000	寄付	708,085	HP作製･更新代
122,500	総会参加費	10,000	瓦版作成費
		89,866	通信費･送料
		5,200	用紙代
		13,250	コピー代
		14,805	暦･宇の会印刷代
		10,000	音楽指導者謝礼
		20,000	資料代
		48,894	預金
		500,555	次期繰越金
1,577,900	合計	1,577,900	合計

科学暦4年度　総会報告

科学暦4年9月10日、大阪科学技術センターにて開催。出席会員17名。

角辻会長より、幹事会報告も含めた挨拶があり、その中で、判り易い科学暦概念図の説明がなされた。また、科学暦5年のカレンダーの披露があった。

次に、安積副会長による講話「暦と時刻」。時の記念日、年・月・週・一日それぞれの始まりにつき、噛みくだいた話あり。また、地震に関する興味深い解説があった。

あと、出席者それぞれが所感などを述べ、歓談のひと時。

会旗を崇め、会歌を斉唱し散会。

事務局長　坂口敦厚

総会予告

科学暦5年9月16日（金）18時より。ＪＲ芦屋駅北側百ｍ。「大原集会所」にて開催の予定。

科学暦・宇宙語普及協会事務局
芦屋市奥池町二十二―一八
角辻総合人間科学研究所　気付
電話　〇七九七―三八―〇一二二

編集人
科学暦五年四月二十日
安積　聖夫